

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270102106	
法人名	(株)サン工業	
事業所名	グループホームサンライフ善知鳥	
所在地	青森市古館1丁目13-26	
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成26年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 避難訓練やホームの行事等、地域の方には積極的に参加していただき、良好な関係が築けています。 * 1、2Fの入浴日をずらすことにより、入居者様がいつでも入浴できる体制づくりをしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日頃から近隣住民等とのつながりが強く、お互いに気軽に往来できる関係を築いている。このことにより、ホームの行事はもちろんのこと、災害発生時においても協力を得られる関係にあり、利用者の無断外出時にも近隣住民により助けられた事例もある等、ホームのみならず、利用者一人ひとりが地域の一員として認識されている。 また、市町村との連携も綿密に行われており、行政から利用者の生活向上のための様々な助言を受けられる関係を構築している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念、年間目標を掲げ、日々の生活に反映できるように支援している。	管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、地域との交流を多く持ち、その人らしく、家庭的な環境で生活ができるよう、日々のサービス提供場面に理念を反映させている。また、理念は玄関やホール等に掲示し、全職員で共有化するための取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、行事、避難訓練等への参加を呼びかけ、近隣の人達が気軽に立ち寄っていただけるように努め、町内会の行事にも参加して、交流を図っている。	地域との交流を図るために、ホームの行事等へ参加を呼びかけている他、ボランティアや実習生の受け入れ等も行っている。また、日頃から地域住民との関わりを持ち、隣家に遊びに行ってお茶を御馳走になったり、ホームへも気軽に立ち寄っていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活かしている	見学、実習生、ボランティア等を随時、受け入れている。 その際、プライバシーには十分に配慮し、承諾書をいただいている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の方のご意見、情報交換を行い、今後の取り組みにつなげている。 いつでも会議録が閲覧できるよう、玄関に掲示している。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、定期受診や介護申請、ホーム行事、ヒヤリハット報告等、ホームの状況について説明し、メンバーから出された意見を今後のサービスにつなげていくために取り組んでいる。また、会議では自己評価及び外部評価の結果についても報告し、意見交換を行い、サービスの質の確保・向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と、運営推進会議や電話等にて、協力関係を築いている。 生保担当者と毎月、書類提出の際、情報交換等を行い、協力に取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が毎回参加しており、提案や助言をいただきながら、課題解決に向けて連携を図っている。また、自己評価及び外部評価結果等を提出・報告し、気づいたことは随時、連絡を受けている他、ホームのパンフレットや広報誌を市の担当課に配布し、連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	21時から6時は施錠しているが、それ以外の時間帯は自由に入りができる体制にしている。 身体拘束が必要な時は、家族の同意を記録に残し、個々のケア方法を周知し、身体拘束につながらないように支援している。	職員は身体拘束についての研修を受け、内容や弊害について理解しており、身体拘束は行わない姿勢で、利用者一人ひとりに応じた支援に取り組んでいる。玄関は夜間以外は施錠せず、日中は自由に入ることができ、玄関センサーや鈴をつけ、外出傾向を察知するよう努めている。また、日頃から近隣住民と行き来しており、利用者の顔や名前を覚えていただき、無断外出時に協力が得られる体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の分類、定義、兆候サインマニュアルがあり、職員間での周知を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加後、伝達研修を行い、資料をいつでも見ることができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族の時間に合わせ、十分な説明をしている。 退居後も家族と連絡を取り、退居先への訪問を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、家族等からの意見や苦情の受け付けをするための工夫をしている。	利用者の言動等から不満や意見を把握している他、玄関には苦情箱を設置している。運営推進会議の際に家族から意見を聴取し、家族等が意見を出しやすいよう、ホームの広報誌には日頃の利用者の様子や行事等を写真入りで掲載している他、家族アンケートの実施も検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ミーティングを行い、職員から出された意見が反映されるように取り組んでいる。	月1回、職員会議を開催し、職員から出された意見は、必要があればすぐに取り入れ、改善できる仕組みが整えられている。また、職員の意見を聞きながら、新人職員や経験者の勤務体制が均等となるよう、職員の能力のバランスを考えて、勤務体制や異動等を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に則って、職員の労働条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修後は報告会や職場研修を行い、全職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・連携を通じて、日々のサービスの向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の相談があった時は、利用希望者や家族と面談する等、直接話を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を前提として話を進めるのではなく、家族の思いや希望等を把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応できる事については、家族等と話し合い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念で掲げている「その人らしく、たのしく、しあわせに」をモットーに、共同しながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や家族の思い等を共有できるよう、情報交換を行い、共に支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所等を忘れぬよう、必要に応じて、定期的に出かけている。	アセスメントの際に聞き取りを行い、日頃の生活の中でも話を聞くことで、利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握している。希望があれば、電話や手紙で連絡できるように支援している他、受診の際は昔住んでいた場所を通して行くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の人間関係を把握し、孤立しないように配慮している。 トラブル発生時は必ず介入し、お互いに影響が残らないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も年賀状での近況報告でつながりを持ち、施設等への訪問も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等から情報収集を行い、利用者の思いや希望を把握するように努めている。	利用者の思いや希望、意向はアセスメントで確認し、家族からも聞き取りをしながら把握に努めている。利用者の意向等が十分に把握できない場合は、家族の面会時に情報収集し、入居後も日頃の言動から、利用者の視点に立って把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等について家族や担当ケアマネージャーから情報収集を行い、個々に合った環境を設定できるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを崩さないよう、本人のペースを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ケアマネージャーを中心に全職員の意見や状態等を話し合い、作成している。	介護計画は全職員の意見を聞く他、家族や関係者等の意見や気づきも反映させて作成している。また、計画は利用者本位の個別具体的な内容であり、実施期間を明示し、期間終了後の他、身体状況の変化や希望等に変化があった場合には、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録で日々の暮らしや身体状況等を記録し、全職員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、利用者や家族等のニーズに応じて、訪問マッサージ等のサービス利用を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防団による避難訓練、地域の方やボランティアの訪問等があり、豊かな暮らしを楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関がある時は、受診できるように支援している。	受療状況は入居時のアセスメントで把握し、入居後もこれまでの医療機関の受診を継続する等、精神科や専門医への受診も含め、希望する医療機関の受診を支援している。医療機関から指示があった場合には家族に報告し、状態に変化があった場合にもその都度報告することで、家族も含めて、医療機関との情報交換や話し合いが行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、訪問看護との医療連携ができており、急変時の対応、連絡も可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、病院関係者との情報交換を行い、連携ができています。 入・退院時は家族との連絡、話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての説明を入居時に行っている。 体調等の変化時には都度連絡し、話し合いを行っている。	入居時に、重度化や終末期の対応についてホームの方針を説明し、医療機関や家族との連携を図りながら支援していくこととしている。重度化した場合に備えて、状態に変化があった場合にはすぐに家族に連絡し、医療機関から説明を聞き、早期から話し合いを行うことで意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含め、緊急連絡網や緊急対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中だけでなく、夜間も想定した避難訓練を年2回行い、地域住民、消防署等の協力が得られるよう行っている。	日中だけでなく夜間も想定した避難誘導策が作成されており、職員と利用者が一緒になって訓練を行っている。訓練には近隣住民等の参加・協力が得られている他、消火器や避難路の点検は業者に委託して、半年に1度行っている。また、災害発生時に備え、食料や飲料水は3日分程度の備蓄を行い、定期的に入れ替えを行っている他、寒さ対策の毛布やストーブ等の準備もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務や個人情報の取り扱いには十分に配慮し、声がけや対応については、羞恥心等に気をつけて行っている。	職員はプライバシーや守秘義務について理解し、取り扱いには十分に配慮している。また、利用者の言動は否定せず、利用者の意向に配慮した上で、その人に合った呼び方をしている他、利用者への声がけや対応について気になる時は注意しながら、ホーム全体で日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の表情や反応を読み取ることで、利用者が自己決定できるように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせるのではなく、できる限り、利用者のペースで生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで衣服を選んだり、その人らしい身だしなみをしていただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に会話をしながら食事をし、後片付けも声がけして行っている。	嗜好品のアンケートや定期的な会議等を通じて、利用者の好き嫌いの把握に努めており、必要に応じて代替品で対応している。利用者は個々の状況や意思に応じて、茶碗拭きやお膳準備等の作業を行っている他、職員も一緒に席について食事を摂り、利用者との会話を楽しみながら過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量を記録し、体調等の変化で食事が摂れない場合でも、時間をずらしたり、一日を通して食が進むように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内の洗浄や義歯の手入れを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の生活のリズムを崩さないよう、本人のペースを支援している。 排泄パターン等を記録し、必要に応じて誘導も行っている。	一人ひとりの排泄パターンを記録し、状況を把握している。尿・便意がなくても時間で誘導し、自立に向けた支援を行い、おむつがはずせるように随時検討しながら対応している。また、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、予めトイレに必要な物品を準備して、他の利用者には気づかれず、速やかに対応できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、自然排便ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間等、利用者の意向を取り入れている。	利用者の入浴習慣等は聞き取りにて把握しており、週2回、ユニット毎に曜日を変えて入浴日を設定し、別のユニットでの入浴も可能である。入浴介助は1対1で行い、利用者の羞恥心に配慮している他、浸かり過ぎ等の入浴時の注意点について、マニュアルを基に、適切な支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者に対しては、家族や主治医と相談し、眠剤等の服用を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬等がないよう、定期的に職員間で話し合いを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や楽しみを促す働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分転換につながるよう、季節毎に外出行事を行っている。	利用者の楽しみや気分転換につながるよう、年間の計画を立てて外出の機会を設定している他、近所へお茶を飲みに行ったり、近所の公園等へ日常的に出かけている。また、利用者の状況により、移動方法や移動距離に配慮して支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時には、物品選びや支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかけたり、手紙を出す時には他者に内容等がわからないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾り付けを行っている。	ホーム内の壁には絵が飾られ、室内や各居室の入り口には季節の飾り付けがなされている。職員が立てる物音や声は騒がしくなく、テレビや音楽の音量も適切である他、窓にカーテンをかけて日射しに配慮し、室内の明るさも適当である。また、ホームは高断熱・高気密システムの建物で、24時間計画換気、全室暖房により一定の温度が保たれ、快適な空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が寛げるような環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物、馴染みの物を持ってきていただけるよう、家族等に働きかけている。	自宅で使っていた家具や愛用していた物等を持ってきていただくように働きかけ、馴染みの物を引き続き使用できるように促している。居室への持ち込みが少ない場合は、手作りの作品を飾る等、利用者の意向を確認しながら、職員と利用者と一緒に居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所間違え等を防ぐために目印があり、必要な場所には手すりを設置している。		